

## 2017年1月28日の市立一宮中央図書館見学

2017年1月28日と29日の2日間に2つの図書館見学と講演会・シンポジウムの参加というハードスケジュールでしたが、とても有意義な企画でした。28日の午後には一宮市立中央図書館の見学し、館長の代理の方の話を伺いました。一宮市立図書館は尾張一宮駅の駅前ビル（i-ビル）の5、6、7階という非常に利便性のいいところに6,700㎡という広いスペースを使った図書館で、5階が児童書エリア、6階が一般書・視聴覚エリア、7階が一般書・参考図書エリアでした。



(図書館の入口)



(5階 児童書エリア)

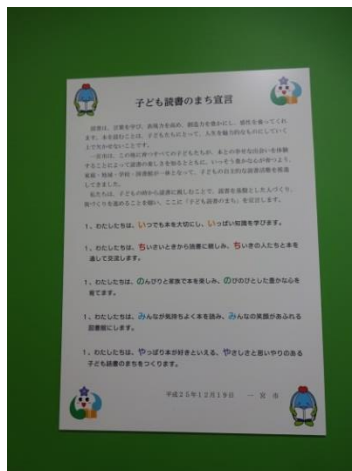


(地元の産業から「繊維コーナー」がある)

児童書コーナーは、すべて低い書棚で、見やすく、たくさんの大型絵本や紙芝居が誰でも見られるように開架スペースにゆったりと並んでいて、うらやましい限りでしたが、それ等の子どもの本の棚には、オーシマコーナーと名前が付いていて、企業の寄付とのことでした。一宮市はH25年に「子ども読書のまち宣言」をしていて、「子ども読書のまち宣言」と「宣言ができるまで」と子ども向けの絵入りの宣言が貼ってありました。ボランティアグループによる絵本の読み聞かせが行われていたので、見学しましたが、選ばれている絵本などはちょっと？という感じでした。



(大型絵本と紙芝居のコーナー)



(大人向けの「子ども読書のまち宣言」)



(子ども向けの「子ども読書のまち宣言」)



(おはなし会室)

★この立派な中央図書館のH25年オープンの際に、朝9時から夜9時まで開館を可能にするためあって直営の中央図書館ながら、一部業務委託の導入もされました。現在は2期目だそうです。TRCに委託で、3年間で5億8000万円を支払い、60名の委託職員が3交代で年間320日開館しているということです。(その他の地域館はすべて)市による直営)業務委託の場合は、やはり職員の移動が早いとのこと。窓口が全て委託職員となるといろいろ問題があると思われるが、案内してくださった方が、インフルエンザで休まれた館長の代理であまり図書館業務に詳しくなさそうな方で、そのあたりはあまり聞けませんでした。鈴木真佐世